



東北を伝える

東北の獅子、ロンドンで舞う 奥州金津流獅子躍 英国公演

岩手県・宮城県の代表的な伝統芸能である鹿踊り^{ししおどり}を伝承する団体、奥州金津流獅子躍連合会の16名が、ロンドンで最大の野外アート・イベント「テムズ・フェスティバル」や、ロンドン近郊オクスフォードの博物館、メイドストーンの美術館で演舞を披露しました。

鹿踊りは、岩手・宮城に伝承され、長い年月、土地の人びとの心の拠り所として舞われてきました。公演会場では、その背景を理解し、より深く鑑賞できるように、鹿踊りについて解説したパンフレットを配布し、観客に好評を博しました。

テムズ・フェスティバルはロンドン中心部のテムズ川周辺で開催される音楽やダンスの催しで、毎年80万人以上を動員しています。ちょうどオリンピック・パラリンピックが開催された2012年夏は、いつにも増して大勢の人が世界からロンドンに詰めかけていました。震災で亡くなった方々への鎮魂や復興への願いを込めて披露された演舞を4万人近くの人が鑑賞し、金津流獅子躍の洗練された美しさと、獅子の勇壮で荒々しい風格に見入っていました。



メイドストーンの市街での公演後、舞い終わった獅子に子どもをはじめ、たくさんの観客が近寄ってきて、話しかけたり近くから眺めたり。温かな交流が生まれた

公演	オクスフォード	2012年9月6日	オクスフォード大学付属 アッシュモリアン博物館
	メイドストーン	2012年9月7日	メイドストーン美術館
	ロンドン [テムズ・フェスティバル]	2012年9月8日・9日	ロンドン市内中心部

奥州金津流獅子躍連合会

岩手県奥州市江刺区、岩手県大船渡市、宮城県大崎市を拠点とする金津流の5団体による連合会。金津流獅子躍は江戸時代に宮城県から岩手県の江刺市(現・奥州市)に伝授されたのが発祥とされ、今日まで神事芸能として受け継がれている。連合会結成後、芸の伝承と後継者の育成のため活動している。国内での公演はもとより、アメリカ・ロシア・エジプト・ブルガリアなど海外からも数多くの招へいを受けている。



会場で配布された奥州金津流獅子躍のパンフレット。鹿踊りの歴史や衣装、舞の意味などについて解説しており、来場者の好評を得た

会場で

来場者のコメント

高い芸術性を持った印象的なパフォーマンスだった。

東北の民俗芸能が紹介されることは大きな意義がある。

出演者のコメント

公演やナイトパレードで、英国の人びとから喝采を浴び、オリンピックのために世界各国から集まっていた人達から「ガンバレニッポン!」等の大きな声援を受けて、苦しかったが獅子躍を復活・伝承してきて良かったと心から感じ、復興への思いを強くした。

東北を伝える

南三陸の高校生ら、鹿子躍を米国で披露 行山流水戸辺鹿子躍 米国公演

宮城県南三陸町の水戸辺^{ししおどり}鹿子躍保存会は、地震と津波の甚大な被害に遭い、太鼓や衣装も失いましたが、仮設住宅等に住みながら稽古を続け、地域の伝統芸能の継承と発展に取り組みんでいます。同保存会の高校生7名と指導者4名が、2012年8月、「第22回日米草の根交流サミット ノーステキサス大会」に招かれ、テキサス州内で計3回の公演を行いました。テキサス・レンジャーズ・アーリントン球場では試合前の始球式で舞を披露。1万6千人の観客が鎮魂と復興の願いを込めた勇壮なパフォーマンスを楽しみ、そのようすは、テキサスを代表するダラス・モーニング・ニュース紙に写真入りの記事で伝えられました。また、NHKによる生中継においても、演舞の様子が紹介されるなど、新聞報道やテレビ中継を通じて日米両国の幅広い人びとに届けられました。公演の期間中、高校生達はアメリカの家庭でのホームステイを通じ、現地の日常生活の一端に触れ、草の根レベルの日米の交流が深められました。

東北を伝える

写真で見る東北の過去・現在・未来 「東北—風土・人・暮らし」 講演会

写真展「東北—風土・人・暮らし」は、写真評論家の飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある9人と1組の写真家の作品で構成した展覧会です。農村、自然、遺跡などさまざまな視点で東北が照らし出された作品が紹介されています。本展覧会は、2012年3月から1年間に、イタリア(ローマ)、オーストラリア(シドニー、パース、ブリスベン)、マレーシア(ジャアラム、ペナン)、フィリピン(マニラ)、中国(北京、武漢、長春、重慶、大連)、インド(デリー)を巡回し、今後も2017年3月まで世界各地を巡回する予定です。

2013年3月、マニラでの展覧会の開催にあわせ、監修者である飯沢耕太郎氏と、出展作家のひとり、津田直氏による対談講演会を、フィリピン国立博物館で実施しました。対談では、東北の伝統や歴史、古来より受け継がれている習俗など、日本の基層文化が残る地としての「東北」について語られました。会場からはさまざまな視点から質問が寄せられ、3.11以前の東北の姿を写した写真展の展示と併せ、東北の奥深い魅力が伝えられました。



写真提供：公益財団法人ジョン万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター

公演	アーリントン[レンジャーズ対 タンパベイ・レイズ戦始球式]	2012年8月28日	テキサス・レンジャーズ・アーリントン球場
	ダラス [日米草の根交流サミット 大会閉会式]	2012年9月1日 2012年9月2日	テキサス大学ダラス校クラーク・センター メイヤーソン・シンフォニー・センター

主催 財団法人ジョン万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター

助成 国際交流基金、TOMODACHIイニシアチブ

行山流水戸辺鹿子躍保存会

宮城県北部から岩手県南部に伝わる民俗芸能の鹿踊りの流派のひとつ、「行山流鹿子躍」は、南三陸の水戸辺が発祥の地と言われている。水戸辺鹿子躍保存会で伝承の担い手として活躍するのは、主に地域の中学生や高校生。

来場者の声

大きな被害を受けたにもかかわらず、素晴らしい踊りで勇気もらった。

被災後、太鼓や衣装を拾い集め、仮設住宅で生活しながらも、すぐに踊りを復活させたことに胸を打たれた。



講演会 2013年3月9日 フィリピン国立博物館

来場者数：94名

飯沢 耕太郎[写真評論家]

「東北—風土・人・暮らし」展企画監修。著書に『写真的思考』(河出書房新社 2009年)、『アフターマス—震災後の写真』(菱田雄介共著 NTT出版 2011年)など。

津田 直[写真家]

国内外で多数の作品を発表し続け、21世紀の新たな風景表現の潮流を切り拓く新進の写真家として注目されている。2010年から東北地方の縄文時代の遺跡を撮影。

来場者の声

写真を撮るということや、日本の歴史や文化について示唆に富む講演だった。

自然との調和を学ぶことができた講義だった。

講演会でのディスカッションは、大学の授業を欠席しても来た価値があった。

写真のことばかりでなく、日本の伝統についても学ぶことができた。